

国際交流2024

FRIENDSHIP IS THE ONLY CEMENT THAT WILL EVER HOLD THE WORLD TOGETHER.

令和6年国際交流報告書



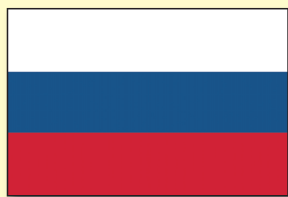
INTERNATIONAL
EXCHANGE
MAIZURU 2024

自2024年1月
至2024年12月

目 次

姉妹都市・ナホトカ市の概要	P3
友好都市・大連市の概要	P4
姉妹都市・ポーツマス市の概要	P5
その他の交流がある国・都市	P6
京都舞鶴港と対岸諸港を結ぶ国際航路図	P7
大連市との交流	P8
ポーツマス市との交流	P10
浦項市との交流	P11
ウズベキスタン共和国との交流	P12
インバウンド誘致事業	P13
京都舞鶴港を活用したクルーズ船の誘致	P14
京都舞鶴港を活用した貿易振興	P16
その他国際交流	P17
外務省体験記	P20
各種ホームページの紹介	P23

※氏名の記載については、敬称を省略させていただき、職名や組織名等は当時のものとさせていただきます。



姉妹都市

ナホトカ市（ロシア連邦）

Nakhodka



姉妹都市提携年月日

1961（昭和36）年6月21日



ナホトカ市の概要

ナホトカ市はロシア連邦沿海地方の南東部に位置し、面積約325.9Km²、人口約13万7千人（2023年現在）を有する都市です。19世紀半ば過ぎにロシアの軍艦「アメリカ号」が偶然発見したのが都市の起源であり、「ナホトカ」には、ロシア語で「見つけもの」の意味があります。日本との時差は+1時間。

産業：舞鶴と同じ天然の良港を有する国際港湾都市で、主な産業は、海上輸送、漁業、石油製品卸、建設業、商業です。また、シベリア鉄道の東端に位置しているため、遠くロシア西部やヨーロッパをも後背地とする重要な物流港です。

気候：モンスーン型気候で1月の平均気温は-13℃、8月の平均気温は18℃、年間降水量は740mm。

その他の姉妹都市：敦賀市・小樽市（日本）、吉林市（中国）、東海市（韓国）、オークランド市・ベリンガム市（アメリカ）、プーケット州（タイ）



ナホトカ市庁舎



ナホトカ市との交流

1956年日ソ共同宣言の調印により、舞鶴市では引揚者の乗船港としても縁の深いナホトカ市と貿易で友好を深め、日ソ両国の友好強化に寄与しようという機運が高まり、1956年に舞鶴市議会において、ナホトカ市に対する友好決議が行われました。1961年6月、ドウボフカ・ナホトカ市長を舞鶴市に迎え、日本とソビエト連邦（当時）との間で初めてとなる姉妹都市提携が実現しました。以来今日まで、両市の間では「日本海を平和と友情の海に」を合言葉に、スポーツ交流団の相互派遣、少年使節団の交換、通信体育競技会の実施など活発な交流を展開し、2021年には、姉妹都市提携60周年を迎えました。



舞鶴市・ナホトカ市友好の碑



ナホトカ商業港



カザンスキー教会



友好都市 大連市 (中国) Dalian



友好都市提携年月日

1982 (昭和57) 年5月8日



大連市の概要

大連市は中国東北部遼東半島最南端に位置し (緯度は日本の山形県酒田市とほぼ同じ)、東は黄海、西は渤海、南に海を隔てて山東半島を望む港湾工業都市です。人口608万8千人 (2023年現在)、面積約12,574K㎡。1899年にロシア人が大連港の建設を開始したのが都市としての始まりです。日本との時差は-1時間。

産業：古くから造船・石油化学など重工業の拠点でしたが、改革開放後、東北地方においていち早く市場経済化に取り組みました。90年代からは日系を中心とする外資系製造業の誘致に成功し、近年は海外IT企業の進出も目覚ましく、環境技術の導入にも力を入れています。一方、観光産業における発展も目覚ましく、「アカシア祭り」「国際ビーチ祭り」「国際ビール祭り」「国際マラソン大会」など季節ごとにイベントが開催され、多くの外国人観光客で賑わっています。

気候：暖温帯大陸性モンスーン気候で、四季がはっきりしています。1月の平均気温は-3.9℃、8月の平均気温は24.1℃、年間降水量は550～950mm。

その他の友好都市：北九州市 (日本)、ブレーメン市・ロストック市 (ドイツ)、グラスゴー市 (イギリス)、ル・アーヴル市 (フランス)、オークランド市 (アメリカ)、ウラジオストク市 (ロシア)、ポワントノワール市 (コンゴ共和国)、エンスヘーデ市 (オランダ)



大連市人民政府庁舎



大連市との交流

舞鶴市では、地理的な条件や引き揚げ等の歴史的な経過から、大連市 (当時旅大市) との友好交流を望む市民の声が強くありました。1978年の日中平和友好条約の締結により、舞鶴市としても友好都市提携実現に向け、関係機関への働きかけや経済・貿易関係の交流を積極的に展開した結果、1982年5月、舞鶴市において崔栄漢・大連市長 (当時) を迎え、友好都市提携が実現しました。以来今日まで、両市の間では各種訪問団の相互派遣、少年使節団の交換、友好の船の派遣など活発な交流を展開し、2022年には、友好都市提携40周年を迎えました。



白玉山からの旅順港の眺め



中山広場



大連の海鮮料理



姉妹都市

ポーツマス市 (英国)

Portsmouth



姉妹都市提携年月日

1998 (平成10) 年5月15日・27日



ポーツマス市の概要

ポーツマス市は英国南部のイギリス海峡に面した港湾観光都市です。人口約20万8千人(2022年6月現在)、面積約40Km²。ロンドンの南西部110kmに位置し、1927年に市制を施行しましたが、ポーツマス市の起源は1194年にリチャード1世の憲章にはじまり、800年余の古い歴史を持ちます。日本との時差は-9時間。

産業：英国海軍の主要基地として発展してきた町で、現在、海軍基地はポーツマス・ヒストリック・ドックヤードと呼ばれる観光施設として利用され、当時の軍艦等が保存されています。多くの博物館や観光施設を有する、英国のみならずヨーロッパでも有数のリゾート地として知られています。近年では、港湾地区の再開発が進められ、複合レジャー施設「ガンワーフ・キーズ」は多くの人でにぎわいを見せています。

気候：北部を丘陵地帯に守られ、イギリス海峡の湾流の影響もあり、温暖な気候に恵まれています。平均気温は夏で18～25℃、冬で5～12℃ほどです。

その他の姉妹都市：カーン市(フランス)、デュースブルク市(ドイツ)、ハイファ市(イスラエル)、ポーツマス3市(アメリカ・ニューハンプシャー州、バージニア州、ロードアイランド州)、シドニー市(オーストラリア)、珠海市・湛江市(中国)、シレット市(バングラデシュ)、フォークランド諸島(英国領)、ハリファックス市(カナダ)



ポーツマス・ギルドホール

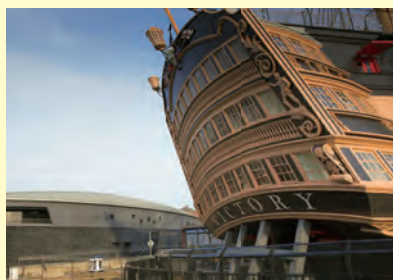


ポーツマス市との交流

舞鶴市とポーツマス市は、1993年赤れんが博物館の開館時にポーツマス市かられんがが贈られたことをきっかけに交流が始まりました。その後、小中学校の手紙の交換やボーイスカウトの交流など市民レベルでの交流が進み、1998年5月に舞鶴市・ポーツマス市の市長が両市を相互訪問し、姉妹都市提携が実現しました。特に舞鶴市の青少年がポーツマス市を訪れて行う英語研修では、これまでに280人以上の中高生が参加しています。2023年には、姉妹都市提携25周年を迎えました。



スピナーカッター



ビクトリー号



ガンワーフ・キーズ

その他の交流がある国・都市



浦項市 (大韓民国) Pohang



浦項市の概要

浦項市は、韓国・慶尚北道の東海岸に位置する、人口約49万2千人(2024年3月現在)、市の面積約1,129Km²の国際港湾都市です。



韓国で一番最初に日が昇る地として有名な「ホミゴッ」

古くから水産業で栄えたまちでしたが、1970年代初頭に「浦項製鉄所(POSCO)」が誕生して以来、韓国有数の工業都市として発展してきました。浦項港では、鉄鋼関係の輸出入が大半を占めます。2014年にKTX(韓国版新幹線)が開通し、首都ソウルから約2時間半でアクセスできるようになりました。



浦項市との交流

2011年7月に、京都府とともに「経済交流等の推進に関する協定書」を締結後、本格的に交流を開始しました。2011年11月に、京都舞鶴港が国から3つの機能(国際海上コンテナ、国際フェリー・RORO船、外航クルーズ)で「日本海側拠点港」の選定を受けて以来、国際フェリー航路の開設に向けた取り組みを実施。現在、舞鶴市では浦項市と中学生の相互訪問など、青少年交流を進めています。



ウズベキスタン共和国 (首都：タシケント市) Republic of Uzbekistan



ウズベキスタン共和国の概要

ウズベキスタンは中央アジアに位置しており、面積は日本のおよそ1.2倍、人口は約3,570万人(2024年現在)、戦後、約2万5千人の



日本人抑留者が建設に携わった「ナボイ劇場」

日本人が抑留された地で、1991年にソビエト連邦崩壊に伴い独立した国です。

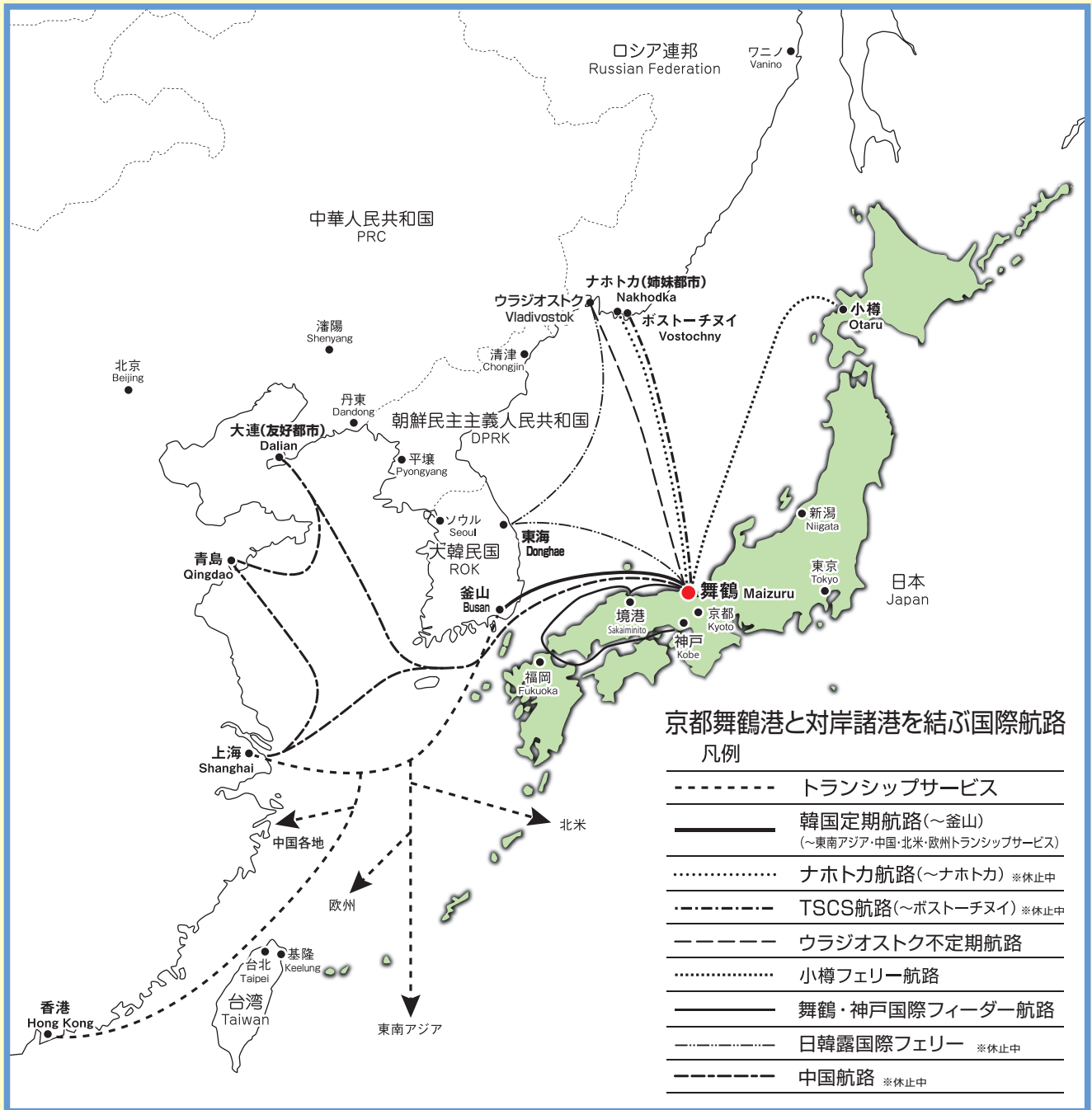


ウズベキスタン共和国との交流

2016年1月、首都タシケント市内の日本人抑留者資料館のスルタノフ・ジャリル館長が引揚記念館を訪問したことがきっかけでウズベキスタンとの交流が始まりました。その後、東京五輪におけるウズベキスタンのホストタウンに登録され、2021年の本大会直前には、柔道代表選手団が舞鶴市で事前合宿を実施。このほか、日本人抑留者が建設に関わったナボイ劇場の団による公演や、現在では、2019年にリシタン地方と交換した「人材育成交流に関する覚書」に基づき「産業技術」「介護福祉」「農業」分野の人材育成に協力しています。



京都舞鶴港と対岸諸港を結ぶ国際航路図



大連市との交流

2024年5月18日(土)～21日(火) 舞鶴市代表団が大連市を訪問

第33回大連アカシア祭りに参加するため、舞鶴市長を団長とする舞鶴市代表団が5年ぶりに大連市を訪問。アカシア祭りの開幕式及び歓迎レセプションに出席したほか、陳紹旺大連市長と会談し、今後の友好交流の発展について意見交換を行いました。

《訪問者(4名)》

舞鶴市長	鴨田 秋津
舞鶴市産業振興部長	小島 宏
舞鶴市みなと振興・国際交流課長	中山 隆司
舞鶴市みなと振興・国際交流課国際交流係長	坪内 善紀



第33回大連アカシア祭り開幕式

《日 程》

5月18日(土)
大阪発、大連着
5月19日(日)
第33回大連アカシア祭り開幕式、大連市内視察、大連アカシア祭り歓迎レセプション
5月20日(月)
大連市長との会談、大連市内視察
5月21日(火)
大連発、大阪着



歓迎レセプションで鴨田市長が挨拶

2024年7月26日(金)～30日(火) 大連市少年使節団が来訪

大連市から青少年の相互訪問事業の一環で、6年ぶりに少年使節団21名(小学生16名、引率者5名)が来訪。舞鶴市民の家庭でホームステイを行ったほか、明倫小学校でソーラン節を通じて交流するなど、舞鶴での滞在を満喫しました。

《来訪者(21名)》

大連市金州区実験小学校6年	王宝逸
大連市中山区東港第一小学校6年	張少辰
大連市実験小学校5年	劉上慈
大連市実験小学校5年	李翊寧
大連市実験小学校5年	林雅沫
大連市実験小学校5年	于添伊
大連市実験小学校5年	王奕舒
大連市実験小学校5年	王耀民
大連市実験小学校4年	王思羽
大連市実験小学校4年	李一諾
大連市実験小学校4年	郭馨蕊
大連市実験小学校4年	崔芳瑜

大連市実験小学校4年	沈 嫻
大連市実験小学校4年	周心澤
大連市実験小学校4年	姜諾溪
大連市実験小学校4年	関谷杭
大連市西岡区委員会教育委員会専任副書記	王建林
大連市西岡区教育局職員	王 博
大連市実験小学校校長補佐	劉 丹
大連市実験小学校教諭	王 穎
大連市人民政府外事弁公室アジア処四級主任科員	王瑩鈞

《日 程》

7月26日(金) 舞鶴着
7月27日(土) 歓迎式・ホストファミリー対面式、市内各家庭でホームステイ
7月28日(日) ホームステイ先で体験活動、みなと舞鶴ちゃった花火大会見学
7月29日(月) 明倫小学校で学校交流、舞鶴かまぼこ作り体験、茶道・抹茶点て体験
7月30日(火) 舞鶴発、大阪着



明倫小児童とソーラン節で交流



抹茶点て体験

2024年9月7日(土)～8日(日) 大連市代表団が来訪

中国共産党大連市委員会書記を団長とする大連市代表団13名が来訪。書記の来訪としては23年ぶりとなりました。友好都市である大連市との更なる関係強化を図りました。

《訪問者(13名)》

中国共産党大連市委員会書記	熊茂平
中国共産党大連市委員会副秘書長	王 珏
大連市人民政府外事弁公室主任	成英俊
大連市商務局局長	李漢国
中国共産党大連市委員会弁公庁副主任	劉志璋
中国共産党大連市委員会弁公庁一級主任科員	李 洋

中国共産党大連市委員会弁公庁二級主任科員	張 勛
大連市人民政府外事弁公室アジア処処長	景詩博
大連市人民対外友好協会四級調研員	朴蓮姬
大連市人民政府外事弁公室秘書処職員	張冬煒
大連市人民政府外事弁公室アジア処四級主任科員	王瑩鈞
中国共産党大連市委員会外事弁公室秘書処処長	王開堃
大連メディアグループ記者	張曦東

《日 程》

9月7日(土) 舞鶴着、舞鶴市長と中国共産党大連市委員会書記の会談、歓迎会
9月8日(日) 舞鶴発、京都着



鴨田市長と熊書記との会談



大連市代表団の歓迎会

ポーツマス市との交流

2024年2月10日(土)～15日(木)

舞鶴市・ポーツマス市姉妹都市提携25周年記念 舞鶴市代表団がポーツマス市を訪問

舞鶴市とポーツマス市は、1998年に姉妹都市提携を行って以来25周年を迎え、この節目に際し、舞鶴市長を団長、舞鶴市議会議長を副団長とする舞鶴市代表団がポーツマス市を訪問。ポーツマス市名誉市長との会談や25周年記念事業として、相互寄贈図書の除幕式などを行いました。

《訪問者(4名)》

舞鶴市長	鴨田 秋津
舞鶴市議会議長	上羽 和幸
舞鶴市産業振興部長	小島 宏
舞鶴市みなと振興・国際交流課長	中山 隆司

《日 程》

2月10日(土)	伊丹発、羽田～ロンドン着
2月11日(日)	ポーツマスへ移動、相互寄贈図書除幕式、ポーツマス市内視察
2月12日(月)	ポーツマス市内視察
2月13日(火)	記念碑除幕式、ポーツマス市名誉市長との会談、ポーツマス市議会冒頭出席、ロンドンへ移動
2月14日(水)	ロンドン発
2月15日(木)	羽田～伊丹着



相互寄贈図書除幕式



姉妹都市提携25周年記念碑除幕式



ポーツマス市名誉市長と記念撮影



ポーツマス市議会冒頭出席

浦項市との交流

2024年8月17日(土)～20日(火) 舞鶴市青少年交流訪問団を浦項市に派遣

舞鶴市と韓国・浦項市との親善交流の一環として、7年ぶりに舞鶴市から青少年交流訪問団(市内中学生14名、引率者5名)を浦項市に派遣しました。

訪問団は、浦項市民の家庭でホームステイを行ったほか、現地の中学校での学校交流やK-POPダンスなどの文化体験を行い、相互理解を深めました。

《訪問者(19名)》

青葉中学校3年	中本 陽菜
青葉中学校3年	坂田 心菜
白糸中学校3年	田中 絢子
白糸中学校3年	山本崇太朗
和田中学校3年	前田 有
和田中学校3年	岩崎 迅
城南中学校3年	西垣 和葉
城南中学校3年	櫻井 綺乃
城南中学校2年	宮代 美奈
城北中学校3年	江口 怜那
城北中学校2年	片山 心彩
若浦中学校2年	谷口 理緒

加佐中学校2年	佐藤 翠南
加佐中学校2年	檜村 乃愛
若浦中学校校長	鈴木 俊治
和田中学校教務主任	矢野 泰教
城北中学校養護教諭	守屋こず枝
舞鶴市教育委員会学校教育課指導係主任	前田 暁代
舞鶴市みなと振興・国際交流課国際交流係長	坪内 善紀

《日 程》

- 8月17日(土)
舞鶴発、大阪～浦項着、歓迎式・ホストファミリー対面式、ホームステイ
- 8月18日(日)
ホームステイ先で体験活動
- 8月19日(月)
興海中学校で交流会(両市生徒からの発表、授業や給食の体験)、浦項市内視察
- 8月20日(火)
K-POPダンス体験、浦項発、大阪～舞鶴着



ホストファミリーと記念撮影



興海中学校で授業体験



興海中学校で給食体験



浦項製鉄所PR施設を視察

ウズベキスタン共和国との交流

留学から就労の循環で産業技術人材を育成

舞鶴市とリシタン地方との覚書に基づき、「産業技術」分野の人材育成交流の一環として、2022年からリシタン地方の日本語学校「Noriko学級」から京都職業能力開発短期大学校へ留学生の受け入れを行っています。

最初に来日した留学1期生3名は、2024年3月に学校を卒業し、同年4月から、いずれも市内企業で働いています。

また、2024年には、新たに2名が留学するとともに、4名が受験し、3名が合格。留学から卒業後の就労までの循環を生み出すことで、人材育成に取り組んでいます。

■2022年留学生(3名)

イギタリエフ・シャフゾッド
イシモイロフ・イザティロ
トジボエフ・ミルゾラフマット

■2023年留学生(3名)

アンヴァロフ・オリフホン
アブディエフ・マラット
アブドゥコディロフ・テムルベック

■2024年留学生(2名)

トシカンボエフ・ウルグベク
マダミンジョノフ・イザティロ

《来日日程》

3月27日(水) 舞鶴着
4月 4日(木) 京都職業能力開発短期大学校入校式

■2025年留学予定者(3名)

イスマトラエフ・ムハマディヨル
アバズベコフ・アザムジョン
ムロドフ・アサドベック

《日 程》

12月12日(木) 舞鶴着
12月13日(金) 引揚記念館視察
京都職業能力開発短期大学校見学
12月14日(土) 京都職業能力開発短期大学校受験
舞鶴市内視察
12月15日(日) 大阪市内視察
12月16日(月) 大阪発



2024年留学生
(左からマダミンジョノフさん、トシカンボエフさん)

2024年8月3日(土)

パリ五輪柔道混合団体 ウズベキスタンチーム応援パブリックビューイングを開催

2021年の東京五輪におけるホストタウンとして事前合宿を受け入れたウズベキスタン柔道代表チームを応援するため、舞鶴市内でパブリックビューイングを開催。現地で繰り広げられている熱戦に、舞鶴からも熱いエールを送りました。



大画面でウズベキスタンチームを応援

インバウンド誘致事業

2024年9月26日(木)～28日(土) VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2024に出展

宇治・亀岡・舞鶴インバウンド連携事業として、3市の観光協会が東京ビッグサイトで開催された「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2024」に出展。国内外の旅行会社31社と商談し、3市の魅力や観光コースについて紹介しました。

《訪問者(6名)》

宇治市観光協会専務理事	多田 重光
宇治市観光協会	道脇 瞳
亀岡市観光協会事務局長	相見 達也
亀岡市観光協会	安部 薫
舞鶴市観光協会事務局長	吉岡 久
舞鶴市観光振興課主幹	松岡 恵美



商談会



商談会場

(通年)インバウンド誘客プロモーション事業を実施

外国人観光客に対するプロモーションを強化し、舞鶴市への来訪を促すため、海の京都DMO等と連携し、京都府の外国人向けPRサイト「Another Kyoto」や台湾メディアの取材誘致に取り組み、まちの魅力を発信しています。



「Another Kyoto」取材時



「Another Kyoto」取材時

京都舞鶴港を活用したクルーズ船の誘致

舞鶴市全体でクルーズ船寄港を盛り上げる



2024年の初入港となったクルーズ船「にっぽん丸」

2024年は2月1日～3日に、クルーズ船「にっぽん丸」が京都舞鶴港に入港。これを皮切りに、12回（外国船10回、邦船2回）のクルーズ船を受け入れました。クルーズ船の寄港時には、舞鶴国際交流協会と市内の高校生による茶道・浴衣の着付け体験や市内で英会話を習う子供たちによる文化交流体験、和太鼓や吹奏楽の演奏、肉じゃがの販売など多くの方々の協力により、乗客や乗組員におもてなしを行いました。



日本と世界13か国の青年が参加した「世界青年の船」事業

「にっぽん丸」は、内閣府の「世界青年の船」事業として寄港したもので、日本と世界13か国の青年が参加し、ディスカッションや京都府北部7市町で文化体験などを行いました。



茶道・浴衣の着付け体験

茶道・浴衣の着付け体験では、ボランティアと乗客・乗組員が会話や写真の撮影などで楽しむ姿がありました。ボランティアに参加した高校生は「言語が違う方に声をかけるのはとても勇気が必要だった。」「外国の文化を教えてもらい、良い機会になった。」と、英語でのコミュニケーションの難しさと充実感を覚えていました。



舞鶴発祥の肉じゃがを販売

まいづる肉じゃがまつり実行委員会による肉じゃがの販売が行われ、舞鶴発祥の肉じゃがを多くの乗客や乗組員に味わっていただきました。

2024年は、クルーズ船の寄港時にボランティアでおもてなしをする「クルーズサポーター」に新たに約60名の市民らが登録。クルーズ船の出港時には、和太鼓や吹奏楽の演奏、プロジェクションマッピングの上映など、市民の皆さんも参加するなかで出港を盛り上げました。



クルーズ船出港時の見送り

2024年7月9日(火)～13日(土) 第10回済州国際クルーズフォーラムに参加

世界のクルーズ産業の持続可能な発展とネットワークの構築を目的に開催された「第10回済州国際クルーズフォーラム」に参加。京都舞鶴港のPRやクルーズ船社・旅行会社との商談会を行いました。

《訪問者(2名)》

舞鶴市産業振興部長
京都府経済交流課主任

小島 宏
下野 群星

《日 程》

7月 9日(火) 大阪発、済州着
7月10日(水) 第10回済州国際クルーズフォーラム参加
7月11日(木)～12日(金) クルーズ船社、旅行会社との商談
7月13日(土) 済州発、大阪着



済州国際クルーズフォーラム開会式

2024年9月20日(金) 束草市代表団が来訪

クルーズ船「コスタセレーナ」に乗船したイ・ビョンソン束草市長をはじめとする束草市代表団が、クルーズ船による京都府・舞鶴市との観光交流促進のため来訪しました。

《来訪者(32名)》

束草市長
束草市議会副議長

イ・ビョンソン
イ・ミョンエ
他30名



束草市代表団

京都舞鶴港を活用した貿易振興

2024年4月11日(木)

中国国際貿易促進委員会大連市分会 叢陽副会長一行が京都舞鶴港を見学

中国国際貿易促進委員会大連市分会叢陽副会長一行が来訪し、舞鶴国際ふ頭や西港第2ふ頭を見学しました。整備が進む港の機能などについて紹介し、周辺企業の利便性のためにも中国との直行航路再開が急務である旨説明しました。

《来訪者(4名)》

中国国際貿易促進委員会大連市分会副会長	叢 陽
中国国際貿易促進委員会大連市分会国際連絡部部长	程 剛
中国国際貿易促進委員会大連市分会国際連絡部三級調査員	楊 魏
中国国際貿易促進委員会大連市分会国際連絡部二級主任課員	佟姍姍



舞鶴国際ふ頭を見学

2024年4月22日(月)～26日(金) 遼寧省商務庁主催「遼寧省ビジネス視察団」に参加

中国東北地方の経済の中心地である瀋陽市や友好都市である大連市の関係団体とのネットワーク構築などを目的として、大阪商工会議所の会員を中心として構成された訪問団に参加。訪問先では京都舞鶴港のプロモーション活動等を行いました。

《訪問者(1名)》

(一社)京都舞鶴港振興会振興部次長 足立 健太

《日 程》

4月22日(月)	瀋陽着、遼寧省新国衛副省長との面会
4月23日(火)	企業視察、瀋陽市企業交流会
4月24日(水)	大連着、企業視察
4月25日(木)	大連市企業交流会、企業視察
4月26日(金)	大連発

2024年9月24日(火)～29日(日) 「大連日本商品展覧会」に出展

京都舞鶴港における中国との輸出入貨物の増加、直行定期航路の再開を図るため、舞鶴市と友好都市である大連市で開催された「第13回大連日本商品展覧会」において、京都舞鶴港及び地域特産品や市内企業等の商品のPRを行いました。

《訪問者(3名)》

(一社)京都舞鶴港振興会専務理事	和久 輝幸
(一社)京都舞鶴港振興会常務理事	飯田 徹
(一社)京都舞鶴港振興会振興部次長	足立 健太

《日 程》

9月24日(火)	大連着
9月25日(水)	関係機関等訪問、展示ブース設営、出展企業交流会
9月26日(木)	ブース運営、貿促会大連市分会招宴レセプション参加



京都舞鶴港をPR

9月27日(金)	ブース運営、関係機関等訪問
9月28日(土)	ブース運営
9月29日(日)	大連発

その他国際交流

2024年6月2日(日)～7月7日(日) 「日本語支援ボランティア養成講座」を開講

在住外国人を対象とした日本語教室の継続的な運営のため、新規日本語支援ボランティアを養成する講座を開催しました。全5回の講座に計25名が受講されました。



日本語支援ボランティア養成講座

2024年10月17日(木) 駐大阪大韓民国総領事が来訪

駐大阪大韓民国総領事館の陳昌洙総領事が舞鶴市長表敬のために来訪されました。

京都舞鶴港を活用した韓国との経済交流や舞鶴市と浦項市との自治体間交流、今後の韓国との交流等について意見交換を行いました。

《来訪者(4名)》

駐大阪大韓民国総領事館

総領事	陳 昌洙(チン・チャンス)
領 事	李 志勳(イ・ジフン)
領 事	鄭 玄煜(チョン・ヒョンウク)
実務官	張 正勳(チャン・ジョンフン)



陳総領事と懇談

2024年10月18日(金)～20日(日) 舞鶴ユネスコ協会が絵画展を開催

舞鶴ユネスコ協会が、ショッピングセンターらぼーるで絵画展を開催。市内の子供たちのほか、姉妹・友好都市である英国・ポーツマス市、中国・大連市の子供たちの絵画が展示され、多くの来場者でにぎわいました。

《展示作品》

わたしの町のたからもの絵画 (市内小中学生の作品)	26点
幼稚園・保育園・こども園園児絵画	21点
世界児童絵画	48点



大連市の小学生が描いた作品

その他国際交流

2024年11月5日(火) フランス海軍艦艇「プレリアル」艦長が市長表敬訪問

フランス海軍艦艇「プレリアル」が日仏間の親善と防衛交流のため、舞鶴へ寄港。艦長のアレクシ・ゴルニッシュ中佐が舞鶴市長へ表敬訪問されました。

《来訪者(2名)》

フランス海軍「プレリアル」艦長

アレクシ・ゴルニッシュ中佐

在日フランス大使館付国防武官

ジェローム・シャルドン大佐



アレクシ中佐と記念撮影

2024年11月10日(日) 南公民館ふれあいサンデーに参加

国際交流員のアフメドフ・アシルベクさんと、京都職業能力開発短期大学校に留学しているウズベキスタン人留学生5人が南公民館で開催された「ふれあいサンデー」に参加しました。

出し物では、ウズベキスタンの伝統的なダンスである「アンディジャンボルカ」やギターの弾き語りでウズベキスタンの曲を披露し、会場は大いに盛り上がりました。



ステージ上で伝統的なダンスを披露

2024年12月8日(日) 舞鶴引揚記念館 学生語り部の活動に参加

国際交流員のアフメドフ・アシルベクさんと、京都職業能力開発短期大学校に留学しているウズベキスタン人留学生が、舞鶴引揚記念館の学生語り部の活動に参加しました。

学生語り部から館内案内を受けたほか、交流会では、日本とウズベキスタンの文化の違いや平和の尊さなどについて意見交換を行いました。



学生語り部が留学生に館内を案内

2024年12月17日(火) 駐日キルギス共和国大使夫人が来訪

駐日キルギス共和国大使館のソルトバエワ・ジャミーリヤ大使夫人が来訪し、舞鶴市長へ表敬訪問されました。キルギスは戦後、日本人が抑留された地の1つで、その後、舞鶴港に引き揚げた縁があります。舞鶴滞在中は、引揚記念館などを視察しました。

《来訪者(7名)》

駐日キルギス共和国大使館

特命全権大使夫人 ソルトバエワ・ジャミーリヤ
キルギス共和国陸上競技連盟

副会長 ナディロフ・メリス

キルギス共和国オリンピック選手養成学校

校長 ジュマナザロフ・ルスラン

陸上選手 キヤゾフ・ケメルベック

通訳 サマコワ・イバラット

堀場 幸子

師岡 孝明



大使夫人と記念撮影



引揚記念館を視察

(通年) 国際交流員(CIR)によるまちづくり出前講座を開催

異文化理解を促進することや市民との交流を深めるため、国際交流員のアフメドフ・アシルベクさんによる出前講座を開催しました。

市内の教育機関や団体など11機関から依頼を受け、舞鶴市とウズベキスタンの交流の取り組みのほか、ウズベキスタンの歴史・文化・料理・観光等について紹介しました。



ウズベキスタン料理教室を開催

外務省勤務録

～4年間の派遣を終えて～

企画政策課 久保 将太

2020年4月から2024年5月までの4年1か月間、外務省と地方自治体の人事交流事業の一環として同省に派遣。外務本省で2年間の勤務後、中国・大連市にある在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所で2年間勤務。その貴重な経験の一部を紹介したい。

1. 外務省中国・モンゴル第二課での勤務

(1) 外務省の勤務の始まり

2020年4月1日、私は、外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第二課に着任した。大学時代に東京で過ごしたが、日本の中枢機関の集まる霞が関は無縁の地だと思っていた。そんな自分がまさか霞が関で勤務することになるとは想像しておらず、高揚感と不安が入り混じる気持ちを抱えながら、外務省の門をくぐった。

私の配属先の中国・モンゴル第二課は、中国及びモンゴルの経済に関する外交政策を所管しており、日々変化する国際・経済情勢のなか、経済面の対話及び協力の維持・強化によって我が国との経済関係を発展させていくことを主たる業務としている。私は、中国との「漁業、科学技術・宇宙、航空、地方連携、環境」と台湾に関する業務を担当することとなった。

一方、私が着任した2020年4月は全世界で新型コロナウイルス感染症が拡大していたタイミングであり、4月に予定されていた習近平国家主席の来日が延期したことをはじめ、様々な往来・交流が停滞した時期であり、私の外務省勤務は驚くほど静かな始まりだった。着任当初の仕事といえば、新型コロナウイルス感染症関連の業務以外思い出されない。中国の新型コロナウイルス感染症の状況を毎日確認・更新し、大きな変化があれば状況を把握すべく在外公館等と連携を取り、関係者に対し毎日報告する業務をしていた。加えて、当時は職場の半分ずつが交代でテレワークを行う体制を敷いており、私とテレワーク日が反対の同僚とは顔を合わせることなく、同僚の顔さえ分からない日々が続いた。

(2) 外務省で働くこととは

新型コロナウイルス感染症拡大期から少しずつ落ち着きを取り戻した頃には、静かな日々は消えていた。出勤しなとできない仕事が増え、テレワーク日の職員が省内



新疆天山天池の景色

で臨時的に仕事をするために設けられた通称「テレワーク部屋」にいたことが増えていた。課内で回る決裁には「至急」「大至急」という決裁の優先度が高いことを示す札がついたものばかりとなり、毎日目の前の作業をしているうちに、0時を過ぎていくことが常となっていた。

また、自治体からの派遣であろうと、自身の担当業務は第一人者として誰よりも熟知していなければならない。国会で日中漁業関連の質問が3問同時に当たった際、課内が手薄だったため、自身が中心となって捌き、30分以内にすべての答弁書作成と局内決裁を完了させる必要があった。またある時は、担当業務が会計検査を受けた際、内容を隅々まで把握してきた自身が中心となって対応しなければならなかった。どんなに重責のある仕事であろうといつでも対応ができるよう、日々責任をもって業務に当たらなければならないことを学んだ。

(3) 外交実務

新型コロナウイルス感染症による影響であらゆる交流が停滞したことに加え、米中関係の悪化もあり、日中関係は冷え込んでいた。日本国内で中国に対する経済安全保障の危機感が急速に高まると同時に、沖縄県の尖閣諸島周辺海域での中国公船の活発な活動や香港での反政府的な動きを取り締まる「香港国家安全維持法」の成立などの影響を受け、日中協力の機運を押し下げていた。これまで着実に進展していた協力案件は停滞し、むしろ様々な局面で日中対立が目立つようになった。そのような中、直接的な対面ができない環境下で、多くの分野で目に見えない非常にタフな交渉を続けていかなければならず、外交現場は、華やかな仕事だけではないのだと知らされた。

日本海大和堆付近の日本のEEZにて中国漁船の違法操業が大きな問題となっており、中国漁船の違法操業問題における中国側への申し入れや日中高級事務レベル海洋協議を始め、日中間の漁業問題に携わったが、対面での交流がない中では双方の距離を縮めることは難しく、交渉を前進させることをより困難にさせていた。それでも、様々な周辺情報や他の交渉状況などを踏まえ、交渉のタイミングや発言の内容・トーンなど目に見えない調整を行い、あらゆる角度から交渉を続けた。漁業問題は国民の関心の高い分野であり、常に緊張感をもって業務に当たることが求められたが、国の利益を守ることと直結していると考え、強くやりがいを感じることができた。

2. 中国・大連での生活

(1) 新型コロナウイルス感染症時代の中国渡航

当時、中国ではゼロコロナ政策が取られており、中国へ渡航するためには、厳格な手続きが必要だった。搭乗予定の7日前に行うPCR検査に加え、搭乗予定の3日以内に2つの指定検査機関で24時間以上間隔をあけて別々にPCR検査を行うなどし、各病院でもらった陰性証明書を中国政府が指定するサイト「防疫健康コード国際版」にアップロードしなければならなかった。そして、「防疫健康コード国際版」にある健康コードの状態が「緑色(合格)」となって、ようやく渡航が可能となった。

大連の空港に着いた後も、中国に着いたことに感動する間もなく、空港でPCR検査をした後、防護服を着た中国人スタッフの案内のもと、指定のバスで指定のホテルに隔離された。私は18日間隔離され、その後自宅に1週間隔離された。当初14日間のホテル隔離だったが、接触したことがないが同ホテルに隔離されている方が陽性になったというだけで、4日間延長された。

隔離ホテルの部屋自体は広く、設備も不足なく十分整っていた。食事についても個人的には口に合うものが提供された。また、中国の主要なメッセージアプリ「wechat」でホテルのスタッフとやり取りすることができ、何か問題が起きれば連絡する体制ができていた上、日本語でも通じた。さらに、ビールやお菓子など嗜好品も購入することができた。隔離されたホテルの対応の良さには改めて感謝したい。

(2) 大連での勤務

大連空港に着いてから3週間経った22年5月18日、ようやく大連領事事務所の勤務が始まった。大連市は約

1,700社の日系企業が進出しており、長期在留邦人が約3,000人と多くの日本人が生活している。ホテルやレストランでも日本語が通じることがあり、日本人にとっては住みやすい。タクシーの運転手でも日本語を話す方がおり、これにはかなり驚いた。大連領事事務所は、日本人、中国人あわせて約30人が勤務しており、大連市との交渉や連絡、日本の経済広報文化活動支援、邦人保護や外国人への査証発給などを行っている。私は、領事班に属し、旅券、査証の担当とともに、地方交流業務を兼務した。

査証業務では、受理された査証申請を審査するが、査証発給要件に合わないものや虚偽資料があり、注意深く審査を行わなければならない。この業務には自国の安全を守るといった役割のほか、間接的に現地の実情を俯瞰する役割があるように思う。なぜなら、査証申請書類は個人情報のかたまりであり、多くの個人情報を見ることで、断片的に中国人の傾向や動向などを把握できたからである。

また、経済や文化の交流業務も携わらせていただいた。大連などの経済人や文化人などと交流を通して、大連経済の動向も知ることができた。一方で、新型コロナウイルス感染症や日中関係の冷え込みなどの影響を受け、例年実施している「大連アカシア祭り」や「中日(大連)博覧会」などの中止や内容変更があったほか、日中交流を促進するイベント等で、大連市政府のトップ等の参加が見送られることもあった。楽しみにしていた大連の主要なイベントなどを満足に体験できず残念であったが、日本に理解のある方が多い大連においても、日中関係の冷え込みを体感することとなったのは、貴重な経験であった。

残念なことばかりではなく、時間があるからこそ地方連携や民間交流は注力することができた。国家間が良好な関係でなくとも民間交流を通して相互理解を深め良好な関係を築くことは有意義なことあり、舞鶴市民代表のつもりで、アカシアウォーキング大会などの交流イベントや大連人との会食などに積極的に参加した。アカシア



大連「中日十都市千人アカシアウォーキング大会」に参加

外務省体験記

ウォーキング大会は、元舞鶴市国際交流員の皆さんなどを誘い、一緒に舞鶴国際交流協会として参加したが、これまで交流の多くなかった元舞鶴市国際交流員の方とも交流するよい機会となった。大連人との会食は2、3日に1回のペースで参加し、50度以上ある白酒でよく乾杯した。一生分以上の白酒を飲んだためもう飲みたくないが、中国人と親密になるには白酒が欠かせないのではないかと思う。

任期終盤には、ようやく日中間の往来も再開されはじめ、舞鶴からの高校生訪問団や鴨田市長をはじめとした舞鶴市代表団の来訪を支援するなど活躍の場が与えられた。長らく止まっていた舞鶴と大連の交流が再開され、本当によかった。

(3) コロナ禍の生活

コロナ禍の生活にも触れておきたい。当時は、ショッピングモールや地下鉄などでは大連市の専用アプリ「健康コード」の提示が求められ、全市民対象のPCR検査が何度もあった。それが当たり前の日常であった。そして、22年9月には大連市でもロックダウンが起これ、約3週間もの間、レジデンスの外にあったPCR検査場以外、ほとんど部屋から出ることさえできないという状況を経験した。食料品の確保が困難な中、一時的にスーパーでの買い物許可された日があったが、商品はほとんどなく、仕方なく誰も買わずに残っていた頭がついている鶏まるごと冷凍された商品を購入したことを覚えている。

このような厳格な管理体制は22年12月に実質的に終わりを迎えた。同時に、非常に多くの人に感染が広まり、例外なく私も感染した。ただ、現地政府機関による措置はなく、ベッドの上でゼロコロナ政策の終わりを実感した。

(4) 貴重な旅行体験

コロナ禍では中国国内を旅行することはリスクが高かったため旅行を諦めていたが、23年1月の成都旅行を皮切りに、50か所ほど旅行することができた。中国での旅行は、想像とは違い、行く先々の人たちはかなりフレンドリーで、嫌な思いをすることは一度もなかった。初めて旅行した成都では、同い年のタクシー運転手と仲良くなり、乗車した翌日以降休暇だからと2日間にわたって成都を案内してくれた。地元の屋台通りにも連れて行ってくれたが、そこで初めて食べた「冒菜」という料理は私の最も好きな中国料理となった。また、友人の故郷である内モンゴルに行った際は、3日間朝から晩までおいしい羊



舞鶴市代表団の大連領事事務所訪問

料理を振舞ってもらった。他にも、正月友人の田舎で伝統的な料理「殺猪菜」を堪能させてもらったり、中国東北地方にある本溪市に行った際には、非常に貴重な「林蛙」を使った料理を振舞ってもらったりした。

旅行では、中国の実態について興味深い話も聞くことができた。大連市の庄河市へ行った際、大連市の友人の地元の友人から、10社あった建設会社のうち1社しか残っていないことや、地方政府の公務員への給与の支払いが滞っており、所帯持ちの公務員はやむなく退職していることなどを聞いた。大連でもビル開発などが滞っていたが、地方はより顕著な状況だった。

余談だが、中国国内を旅行するのは簡単にできる。なぜなら、航空券、地下鉄、タクシー、宿泊、観光地の予約、食事などすべてがスマホ1つで完結するためだ。日常生活でもスマホであらゆる利便性を実現していたが、便利なサービスの普及は驚くほど早い。

3. 外務省での勤務を終えて

正直に言えば、この派遣でハイレベルの往来対応など華やかな活動に従事できることを期待していた。しかし、そのような活動だけがすべてではないし、むしろ困難な時代だったからこそ、日々の積み上げや何気ない交流の大切さに気付かされた。

また、個人的にたくさんの友人と知見を得ることができた。4年間辛いこともあったが、乗り越えられたのは、友人のおかげであり、一生の宝だ。そして、友人のおかげで、中国という国について深く知ることができた。

私は、ここで、改めて、外務省や大連でお世話になった方々には心よりお礼を申し上げたい。本当にありがとうございました。日中両国には様々な課題が横たわっているが、今後も、この経験を生かして、舞鶴と大連の友好関係のため尽力していきたい。

各種ホームページの紹介

姉妹都市・友好都市のホームページや海外安全情報などのホームページを紹介します。
いろいろな情報の検索に便利ですので、ぜひご活用ください。

<https://www.nakhodka-city.ru/>

ナホトカ市のホームページです。ナホトカ市の歴史・教育・産業・経済自由区や観光案内などを検索することができます。(ロシア語・一部英語版あり)

<https://www.dl.gov.cn/>

大連市のホームページです。大連市の概要・投資ガイド・観光案内などについて検索することができます。(中国語・英語・日本語版等)

<https://www.portsmouth.gov.uk/>

ポーツマス市のホームページです。観光案内・市役所の仕事などについて検索することができます。(英語版)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省のホームページです。在外公館のニュースや安全情報を検索できます。(日本語・英語版等)

<https://www.city.maizuru.kyoto.jp/>

舞鶴市のホームページです。姉妹・友好都市との交流や市政全般の情報を検索することができます。
(多言語自動翻訳システムを導入)

<http://www.npomia.com/>

NPO法人舞鶴国際交流協会のホームページです。在住外国籍市民との交流や支援などを中心に活動を展開しています。

<https://www.port.maizuru.kyoto.jp/>

一般社団法人京都舞鶴港振興会のホームページです。京都舞鶴港の概要や定期航路、クルーズ客船、港湾施設等についての情報が掲載されています。

国際交流2024

舞鶴市国際交流報告書

2025年3月 印刷

発行 舞鶴市役所 産業振興部 みなと振興・国際交流課

〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸 1044

電話 0773-66-1037

印刷 株式会社 モトキ